

高い志を持って医学部医学科へ 人間的成長を 支えるプログラムを実践



医療の現場を見学・体験

「心豊かなリーダーの育成」を教育理念に、「心力」「学力」「体力」の三位一体の教育を実践する江戸川学園取手中・高等学校。医学部進学に特化した医科コースを設け、大学入試でも好調が続く。高い実績を支えるのは、細やかな受験対策と医師への志を高める独自の教育プログラムだ。医科コース長の兼龍盛先生にその特色を伺った。

今春は医学部医学科に 過去最多の111名が合格

1993年に設置された江戸川学園取手高等学校の医科コースは、医学部医学科進学に特化したカリキュラムをいち早く確立したパイオニア的存在だ。これまでに東京大学、東京医科歯科大学、筑波大学をはじめ、全国の国公立大学医学部に多くの合格者を輩出してきた。

今春の医学部入試では、国公立大学34名、私立大学77名の計111名が合格。同校での過去最高の実績を記録した。現役での合格者も66名と高い割合を占める。好調が続く背景にあるのは、単なる受験対策にとどまらない細やかな進路指導だ。学習指導や受験対策にとどまらず、医科コースの全教員がチームとなって全国の医学部の入試動向を綿密に分析。生徒が自信を持って受験校の決定を行えるようにサポートしている。

医師に求められる基本的な能力に目を向けた指導に力を入れる点も、医科コースの特長だ。医科コース長の兼龍盛先生は、「生徒には『勉強ができる医科コース生ではなく、勉強もできる医科コース生になりなさい』とよく話します。偏差値が高いから医学部を受験をするのではなく、覚悟を持って医師をめざしてほしいと考えています」と語る。同校では「誠

多彩な教育プログラムで 医師への志と覚悟を育てる

医科コースの代表的なプログラムが正課授業の「メディカルサイエンス」だ。高1から高3までの生徒が週に1時間、「再生医療」「科学実験」「医療統計」「科学英語」の4分野を学年を越えて学び合う。



医科コース
コース長 兼龍盛先生

「再生医療」では倫理的な問題について考えるため、茨城大学教育学部教授の指導を仰いでいるほか、現役

医師などの協力を得てさまざまな研究分野に関する講話を行っている。「科学実験」では物理・化学・生物の実験を行うが、教員はファシリテーターとなり、あえて細かい指導を行わないことにしている。実際に指導するのは上級生で、指導役を担う生徒は事前の準備やデータ処理の仕方などを正確に理解してから臨む必要がある。教える側も学びを深める機会になっており、化学の二段滴定など、大学入試で頻出される実験操作にも取り組んでいる。

「医療統計」では数学科の教員が具体的な事例をもとに、どのような統計処理を施すのか、データの解析や分析などを学習している。

「医療英語」は、ネイティブの英語教員が教材を作成。死産に関する問題や過食症、医師の過剰労働など、シビアな問題を英語でディスカッションする。あこがれだけでなく、厳しい現状を踏まえることで医師としての覚悟を持たせるのが狙いだ。

新たな取り組みとして、一昨年は「アメリカ・メディカル・ツアー」と題した医療系海外研修がスタート。これはカリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）で医療に特化した研修を受けるプログラムだ。「医療現場にも国際化の波が訪れています。国際社会で活躍する医師になるには、世界最先端の医療が行われているアメリカの医療事情を肌で感じる事が極めて有意義と考えました」と兼龍先生。現地では学生



上：アメリカ・メディカル・ツアーの様子。最先端の医療にも触れる
下：月1回、現役の医師が語る「医科講話」。この講話を通じて、生徒は医師をめざす者としての素養を学ぶ



宿舎に滞在し、UCSDの学生と一緒にキャンパスツアーに参加。メディカルスクールの案内してもらったなどの国際交流に加えて、医学部教授による特別医療講話や研究所の見学、医学研究者とのディスカッションなど、医療に関する豊富な話題に触れられる。現在はコロナ禍によって実施が難しい状況だが、来年以降に向けての検討は進んでいる。

人気の医科ジュニアコース 中高一貫6年体制で医学部へ

高校に設置されている医科コースに対して、中等部には医科ジュニアコースが設けられている。中高一貫6年体制で医学部をめざすもので、早い時期から医師に必要な資質を育てている。医学に直接関わるような授業科目はないが、医科コースと同じように行われる「医科講話」の時間など、現役医師らの話を聞く機会が多い。医療現場の実態に触れ

るのはもちろん、医科コースから現役で筑波大学医学群医学科に進学した卒業生が講師として参加するなど、より具体的に将来を描くキャリア教育の場になっている。

実際に「医科講話」を聞いた生徒は、大いに刺激を受けているという。「チーム医療」をテーマに実施された講話では、「患者さんを少しでも早く良い状態にするためにチーム医療が必要だと考えました。医療は手助けであって、手助けをしている人たちが上下の関係はないという考えに感動しました。私はこれからも医療の世界についての知識を学んでいきたいと思いました（中一）」。今回の講話を聞いて、コロナ禍で大変なのは決して医師だけではないのだと気づきました。私は、チーム医療はいろいろな職種の人々がさまざまな立場から患者さんの手助けをするために必要だと思いました。病気の症状はそれぞれ違いがありますが、多くの患者が身体的な問題と同時に心理的な問題や社会的な問題を抱えているため、いろいろな職種が関わり協力することで専門的な立場から手助けができるからです。将来私が医者になったら、チーム医療で患者さんに寄り添える治療をしたいです（中3）といった感想が寄せられた。

昨年度からは、医科ジュニアコース独自の取り組みとして小論文

医学部 合格実績

総合計111名合格

筑波大学7名(5年連続全国1位)
国公立大学34名 私立大学77名

国公立大学	大学名	合計	現役	浪人
	筑波	7	6	1
	山形	4	4	0
	弘前	3	3	0
	秋田	2	2	0
	富山	2	0	2
	群馬	1	1	1
	浜松医科	1	1	0
	名古屋	1	1	0
	岐阜	1	1	0
	宮崎	1	1	0
	大分	1	0	1
	福岡県立医科	1	0	1
	名古屋国立	1	0	1
	防衛医科大学校	8	6	2
	国公立医学部合計	34	26	8

私立大学	大学名	合計	現役	浪人
	獨協医科	10	6	4
	東北医科薬科	9	3	6
	東京医科	6	5	1
	北里	5	3	2
	杏林	5	3	2
	東邦	5	2	3
	昭和	4	3	1
	東京女子医科	4	3	1
	聖マリアンナ医科	4	3	1
	帝京	4	2	2
	埼玉医科	4	1	3
	国際医療福祉	3	3	0
	日本	3	1	2
	岩手医科	2	1	1
	近畿	2	0	2
	日本医科	1	1	0
	東海	1	0	1
	徳知医科	1	0	1
	兵庫医科	1	0	1
	川崎医科	1	0	1
	久留米	1	0	1
	産康医科	1	0	1
	私立医学部合計	77	40	37

なぜ医師になりたいのか
常に問いかけ人間性を育てる

医学部志向の高まりから、同校では医科コースはもちろん、中等部の医科ジュニアコースにも多くの受験

対策をスタートさせた。新聞の社説を書き写し、そのテーマについて家族とディスカッションした後、ワークシートを使って自分の考えをまとめていくというプログラムだ。「新聞社の責任ある主張として記される論説文は、教材として最適です。文章をじっくり読みながら書き写し、生きた言葉の表現や使い方に慣れることで文章力の向上をめざしています（兼教諭）」

放課後には、自由に組み合わせさせて受講できる「アフタースクール」という講座も用意されている。授業を補完する目的で希望者を対象に実施。生徒は100以上の講座から受けたい講座を選ぶことができる。中等部では「苦手教科をつくらない」ことを第一に得意教科のフォローアップに力を入れ、高校では「得意科目をさらに伸ばす」ことを目的にハイレベルな演習を展開している。

生が集まるようになった。兼龍先生は「本校の医科コースは、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など医療従事者ではなく、文字どおり、将来『医師』をめざす生徒が集うコースです」と前置きをしたうえで、「大学医学部で6年間を通じて医学知識、医学技術の習得に努め、国家試験に合格し、研修期間を経て、初めて医師になることができます。一方で、一人の人間として人格を磨き、豊かな人間性を育み、向上させていかなければなりません。医科コース、医科ジュニアコースには、そういう不断の努力をいとわない生徒の入学を強く望んでいます」と力を込め、「なぜ、医師をめざすのか。受験に際してはもちろん、入学後も常に自分自身に問いかけてほしい。そのための環境とプログラムは整っている」と締めくくった。

医師になることの意味を確かめつつ学んでいく江戸川学園取手の医科コース、医科ジュニアコース。「心力・体力・学力」を極める教育で、医師を志す生徒の夢を後押ししている。

